

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 2 区分
 【発行日】平成 17 年 10 月 27 日 (2005.10.27)

【公開番号】特開 2005-234504 (P2005-234504A)
 【公開日】平成 17 年 9 月 2 日 (2005.9.2)
 【年通号数】公開・登録公報 2005-034
 【出願番号】特願 2004-46988 (P2004-46988)
 【国際特許分類第 7 版】

G 1 0 L 15/28

G 1 0 L 15/06

G 1 0 L 15/14

【F I】

G 1 0 L 5/06 D

G 1 0 L 3/00 5 3 5 Z

G 1 0 L 3/00 5 2 1 F

【手続補正書】
 【提出日】平成 17 年 7 月 29 日 (2005.7.29)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 2 6
 【補正方法】変更
 【補正の内容】

【0 0 2 6】

図 7 は再スコアの詳細な方式を示す図である。図 7 を参照して、N - ベスト仮説 1 8 0 の各々について、破線 1 8 2 及び 1 8 4 で示されるとおり 1 - ベスト音素シーケンス 1 6 2 が仮説 1 8 0 中の単語とアライメントされる。アライメントされた音素シーケンス、例えば “ / m e ” が、仮説 1 8 0 中のアライメントされた単語、例えば “ h e ” に対応する H M M 1 9 0 に適用される。同様に、音素シーケンス “ a n d ” 及び “ y u / ” も仮説 1 8 0 中のアライメントされた単語に対応するそれぞれの H M M 1 9 2 及び 1 9 4 に適用される。H M M 1 9 0、1 9 2 及び 1 9 4 は各々スコアを出力し、それらが合計される (2 0 0)。結果として得られるスコア 2 0 2 が仮説 1 8 0 の発音スコアである。

【手続補正 2】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 2 7
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 2 7】

発音スコア 2 0 2 はさらに、言語モデル 1 4 6 を利用して、その仮説のための加重言語モデルスコアと組み合わせられる。選択ユニット 1 4 8 は、N - ベスト仮説のうち最も高い合計スコアを達成したものを選択する。

— 動作 —

図 1 から図 7 に示すシステムは以下のように動作する。最初に、トレーニングデータ 3 0 が与えられる。図 2 を参照して、セグメント化ユニット 6 0 がトレーニングデータ 3 0 中の発話の各々を、ビタビアライメントによって獲得される時間情報に基づき個々の単語にセグメント化する。音素認識ユニット 6 2 は各単語チャンクに音素認識を適用する。このとき、モノフォンより高い音素認識精度を達成するため、ライト・コンテキスト (r i g h t - c o n t e x t : 右側文字列) のバイフォンモデルが適用される。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0030

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0030】

図7を参照して、N - ベスト仮説の各々について、再スコアユニット144が仮説に対し1 - ベスト音素シーケンス162をアライメントし、アライメントした音素をN - ベスト仮説180の単語に対応するHMM190、192及び194に適用する。HMM190、192及び194はそれぞれのスコアを出力し、これらがこの仮説のための加重言語モデルスコアと組み合わせられる。結果として得られるスコア202がその仮説の発音スコアである。